

小学校、中学校、そして地域が共有する学校図書館

産山村

Q1

産山村の学校に係る図書資料数及び一斉読書実施校数を教えてください。

校 種	学 校 数	図書資料数	一斉読書実施校数
小 学 校	1 校	11,030冊	1 校
中 学 校	1 校		1 校

Q2

産山村が、「子ども読書の日」や「こどもの読書週間」などに行っているらっしゃる催し物があれば教えてください。

●子ども読書の日は、小中学校の保護者が中心となって活動している読み聞かせグループ「お話ポケット」（小中学校で毎週金曜日の朝自習時間に1年生～9年生までの全学年で読み聞かせを実施）や、子ども活動を支援している「りとるべあ」（放課後子ども教室の学習アドバイザー）による人形劇やお話し会を開催しています。



大型手作り紙芝居



手芸作品の展示

●この秋の読書週間には朗読劇や、読者が作った手芸作品を参考図書と一緒に展示し、くらしに役立つ図書室として、気軽に読書に親んでもらおうと「図書室まつり」を開催しました。

Q3

産山村の小学校・中学校における学校図書館の活用について教えてください。

図書室は、原則として児童・生徒が登校している時間帯は常時利用できるようなけています。登校直後から朝自習の始まる前まで子どもたちが来室し、小中学生の図書委員がどちらともなく自主的に貸し出し手続きに応じています。

昼休みも同じように、小中学生が交流し、中学生が小学生に「この本面白かったよ」と、声をかける姿も見られます。

中学生は毎月1回小学校低学年への読み聞かせを行ない、小学生とのコミュニケーションを大事にしながら読書の楽しさを伝えています。

また、図書室では児童生徒が折り紙やイラストなど飾り作りやお薦めの本を自由に紹介する読書の木の作成など「楽しい交流の場」となっています。



中学生による読み聞かせ

Q4

産山村が行ってられる学校図書館の夜の開放のことについて教えてください。

※ 経緯

産山村では平成19年度に小中学校が統合し、構造改革教育特区の認定を受け小中一貫教育がスタートしました。効果的な運営のため教育委員会所属の学校司書1名を配置し学校図書室を小中学校で共同活用しています。村内には住民が利用できる図書館がないため、平成20年度より学校図書室を夜間 地域に開放し大人から子どもまで貸出しができるようになりました。

※ 具体的活用の様子

毎週金曜日午後7時から9時までの2時間学校図書室を地域に開放し図書の貸出しや、お話し会を実施しています。

(冬季：1月～3月 午後6時30分から午後8時)

※ 成果や課題

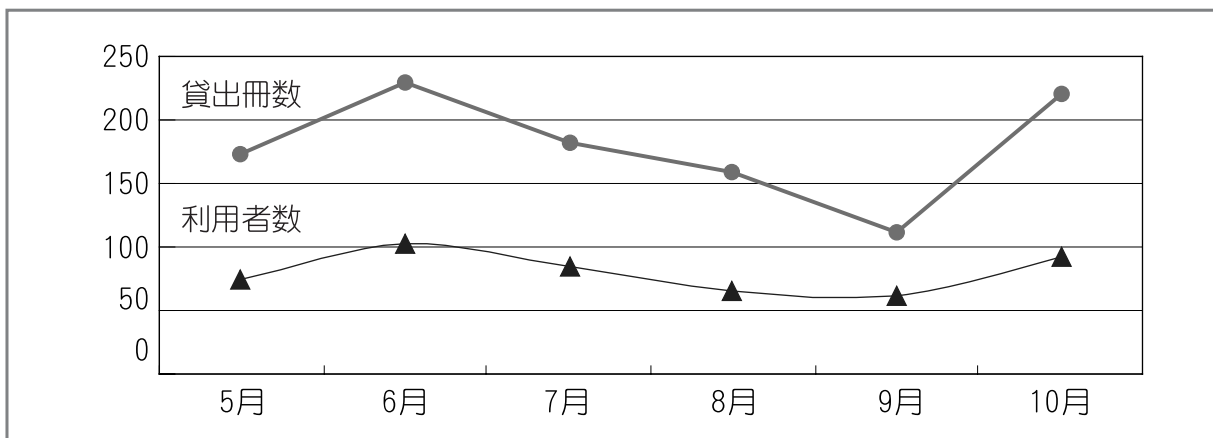
「週一回の夜間開放を楽しみにしています」と、地域の方や親子と一緒に訪れる方で図書室はとてにぎやかです。より多くの住民の方々に利用していただけるように県立図書館の本の活用などにより蔵書の充実していきたいと思えます。



地域住民の学校図書館活用

Q5

学校図書館の夜の開放の利用者数、貸出数について教えてください。



考察：週1回の夜間開放で一回の貸出冊数が一人当たり4冊までといった制限があることから、数値としては低いが村民の14%の方が登録し図書室を利用しています。図書館がないというデメリットが学校図書室の地域開放により村民が気軽に読書に親しめるようになり図書を有効活用できるというメリットに変わりました。今後とも村民に地域図書室として定着するようPR活動にも力を入れていきたい。

Q6

この事例集を読まれるみなさんにメッセージをお願いします。

とにかく環境がどうであれ、まずは自分たちにできることから行動をしてみようをモットーに、無理をしないで楽しみながら活動をしています。関わる大人も子どもたちとともに成長し相補いながら前に進もうという思いがあれば、いろんな可能性が見えてきます。